

CONTENTS COMBAT

2012.Dec.
No.441

12

Cover Design
favorite graphics(tamao ito),
Cover Photo
Tomo Hasegawa
©WORLD PHOTO PRESS 2012



【第1特集／実銃】

018 GLOCK 17 ACCUCOMP CUSTOM & GLOCK WORKS "ZEV" CUSTOM Parts

●Photos&Text by Tomo Hasegawa

【第2特集／トイガン】

032 第52回全日本模型ホビーショー

●Photos&Text by Taku

036 TOKYO MARUI GAS BLOWBACK MP7A1

●Photos&Text by Tomo Hasegawa



044 WESTERN ARMS COLT NEW AGENT

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

048 WESTERN ARMS SCREEN PROPERTY SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

054 バイオハザード ダムネーション 神谷誠監督インタビュー

004 NEW GENERATION STYLER OPERATION

●by fujiwara

014 にっぽんのちからこぶ 月刊・自衛隊「105mm榴弾砲FH70」

●取材:菊池雅之

030 COMBAT RECOMMEND Movie エスクペンタブルス2

●解説:狩野健一郎

058 GOODS & ACCESSORY

070 アフリカ最大の軍事見本市 AAD 2012 Part.1

●レポート:清谷信一(Shinichi Kiyotani)

076 トイガンニュース

076 東京マルイ 次世代電動ガンHK416D

080 東京マルイ 電動ガン ハイサイクルMP5K HC

082 WA FBIスペシャル(ビューロー・モデル)

083 WA M92FS フルオート(アンダーワールドHWバージョン)

084 CAW 南部式自動拳銃 大型乙

085 Militaria Roundup! US. M1944/45 コンバット・パック&カーゴ・バッグ Part.2

●解説:菊月俊之 ●写真:熊谷義久(WPP)/宮坂政邦(WPP)

096 サープラスいじり技術研究所

●写真・文:織本知之

130 The Equipments of the U.S. Force

[現用米軍装備カタログ] 第96回

最新ミリタリー骨伝導ヘッドセット

アトランテック・シグナル社

●解説:松原隆(高知ボンバース) ●撮影:TARO/山崎 学

138 世界の兵士図鑑

航空自衛隊の制服、階級章、各種徽章

●イラスト・解説:坂本 明

142 PRESENT

184 S&Grafグッズ

186 中田商店グッズ

097 GAME OVER THE TOP!

100 物欲ワンホール

Round 14:珈琲とキャンプストーブ

104 レア・ミリタリー・テクノロジー

108 ミリタリー雑学講座

112 ミリタリーコレクション

114 幻妖中隊 #mod.16 ●by FUJIWARA

116 ジャパン・スティー爾チャレンジ

118 A STITCH IN TIME

119 MGストーリー ~小峯隆生のできるまで~

122 蛙のゆびさき(中山 蛙)

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバーリスト

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

164 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか?]

166 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

168 ビバ! ナイフ

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



グロック アクキュコンプ

昨年、突然にグロック17を買った。それも、トイガンでなく実銃のグロック。フリーダムアート主宰の丸山修吾さんから、グロック用アクキュコンプ“実銃用”を提供していただいたことが切っ掛けだった。

グロック アクキュコンプとは、バレル先端を保持しブレをなくすことで命中精度をアップするカスタムパーツ。トイガン用のパーツはその多くが樹脂を金属製に置き換えただけのものや、色を違えただけの装飾的要素が多い。そんな現状にあってフリーダムアートは実際に効果を発揮する実用カスタムパーツを手がけていることで定評がある。中でもアクキュコンプカスタムは組み込むだけで命中精度が確実にアップ。ジャパンスティールチャレンジやJANPS、プレート競技会などトイガン射撃競技会では愛用者が多い。今やフリーダムアートの看板商品のひとつ。東京マルイ製ハイキャバ用とグロック用があり、タイプが色々作られているので好みに合わせて選べる。トモもハイキャバとグロックの両方を愛用している。

スミス“ジーン・シューイ”さんの工房を訪問。デザインを気に入ったジーンさんが実銃用グロック アクキュコンプの製作を快諾。エアソフトガンカスタムと実銃のコラボが実現したのだった。

“よかったらトモちゃんも試して、感想を聞かせてください”と、丸山さん

「トモもグロックくらいは買って持ってた方がいいじゃろ」

イチローさんから嬉しいご提案をいただいた。

グロックを買う……といってもトモが渡米した際はビザも免許証も持っていないため、アメリカで正式に実銃を買うことはできない。お金を出してイチ

GLOCK 17 ACCUCOMP CUSTOM & GLOCK WORKS ZEV" CUSTOM Parts

Photos & Text by Tomo Hasegawa

「カスタムガンデザインする」ことは丸山さんが以前から抱いていた夢だったそうだが、トイガンだけでなく実銃でも実現。なんとグロック アクキュコンプのデザインそのままに、実銃用に製作したのだった。2009年のUSスティールチャレンジに参加した際、グロックカスタムで知られるアメリカ人ガン

のご厚意から、この時の実銃用アクキュコンプパーツをご提供していただいたのだ。

グロック17…… 実銃を購入

イチローさんやミッキーのグロックを借りて試そうかと考えていたところ、

ローさんの名義で買っていただくしか方法はない。イチローさんが地元で行きつけのガンショップに問い合わせてくださったところ、ちょうど手頃な商品があるとのこと。申請してから2週間後、ふたたび受け取りに行った。手続きを終えてお金を支払うと、グロックはガンケースに収められそのまま差し



- 型名：MP7A1
- 全長：381mm～586mm
- 銃身長：145mm（インナーバレル長）
- 重量：2.200g
（実銃重量2.100g/40連・空マガ装着時）
- 装弾数：40発
- 使用弾：6mmBB弾
- 動力源：ガンパワーフロン134a

TOKYO MARUI GAS BLOWBACK MP7A1

東京マルイ初のマシンガンタイプのガスブローバック。パワフルに快調作動！
その秘密は“低消費”に優れたMP7A1専用の新エンジン。
フルオート射撃で最後の1発までしっかり作動し、
BB弾がなくなればホールドオープン！ 脅威の高性能に注目!!

Photos & Text by Tomo Hasegawa

東京マルイ： <http://www.tokyo-marui.co.jp>

COLT NEW AGENT



コルト〈ニュー・エージェント〉

全長	183mm
銃身長	73mm
重量	850g
装弾数	19+1発
予定価格	¥34,650
1月WA渋谷店限定発売予定	

コルト・ガバメント、 21世紀の最新バリエーション

1900年代の幕開けと共に登場したコルトの大口径セミオート。当初は、各種存在していたリボルバーを凌駕するものではなかったが、その後10年で完成され、米軍制式拳銃M1911となった。ふたつの大戦を越えてG.I.を象徴するセミオートとなり、半世紀にわたって米軍制式の座を守り続けた名銃。数々の改良を重ねて1970年代以降は公用、プライベートを問わず、コンパクト・シューティング用のベーシックなセミオートとして、ほかのハンドガン市場異例ともいえる隆盛を誇った。1900年代の終わりには、タクティカル系カスタムのベースとして新たな局面を迎え、開発から100年を超えた現在も、さらに機能的なセミオートを目指して発展を続けている。

コルトは命中精度と携帯性のバランスがもっとも優れている5インチ・サイズの中

心に、より携帯性に注目した4.3インチのコマンドーを加えたサイズ・バリエーションで純正モデルを構成してきた。20世紀の終末期には、当時の傾向に合わせ、より携帯性に優れたディフェンス・モデル、オフィサーズACPを加えている。その後3.5インチ、3インチなど、いくつかのクローン・メーカーが、ガバメントを極限まで小型化したモデルを生産。ガバメントの外観そのままにダウン・サイジングされた各種のコンパクト・モデルは、長い歴史を誇るガバメントの強かなイメージを継承して、ファンのハートをつかんでいる。近年、コルトが発表した“ニュー・エージェント”は、そんなコンパクト・ガバメントの最新モデル。これまでにない、画期的なコンセプトで作られた、小さいながらセンセーショナルなセミオートだ。



オフィサーズACPから受け継がれるダックテイル・タイプのグリップセフティ、ダブルホルルのリング・ハンマーなど、セミカスタムのテイストが漂う。

●レポート：清谷信一 (Shinichi Kiyotani)

アフリカ最大の軍事見本市

AAD2012

African Aerospace and Defence

Part.1



高い機動力を誇示するロイカットのハイブリッド駆動技術実証車。戦闘重量が27t、最大速度は120km/hで90km/hでの巡行が可能。



ハイブリッドの方式としては直接車輪をモーターで回す直列式となった。オリジナルのディーゼル駆動のロイカットとくらべても機動力は劣らない。静止から60km/hまでの加速は14秒で、600kmの航続距離を有している。



エンジンを切り、モーターだけで駆動すれば雑音はほとんど立てない。またモーターを反転すれば本来装輪車では不可能な超高速旋回もやって見せた。これによって極めて小さなスペースでも方向転換が可能となる。これらはハイブリッド車の大きな利点だ。

AAD (African Aerospace and Defence) はアフリカ大陸最大の防衛・航空ショーである。かつては防衛見本市 DEXSA (南ア防衛見本市) と称していたが、その後一般向けの航空ショーをカップリングしてAADと称するようになった。

AADはDEXSA時代から首都プレトリアのウォーター・クルーフ空軍基地で開催されてきたが、8年前から前回まで同基地の改修工事のため会場をケープタウンに移していた。だが、基地の改修が終わり、今年からまたウォーター・クルーフ空軍基地に戻ってきた。

南アフリカはアパルトヘイト時代、

国際的な経済および武器禁輸を受けたために軍隊の装備を国産化することを迫られ、多くの兵器を国産化した。その陰には同じく孤立していたイスラエルや台湾の協力があつた。1970年代は対テロ装備、その訓練の導入は主としてイスラエルからであり、火砲やチータ戦闘機など現代的な装備の開発にもイスラエルの協力があつた。また当時南アはイスラエル製弾薬の最大の顧客だった。逆に中東戦争で部品が不足したイスラエルに対して南アが部品を供給するなどということもあつた。

南アは'94年に民主化を果たしたが、

当時のネルソン・マンデラ大統領は「国防産業は国の財産である」と主張し、輸出も力をいれてきた。だが南ア企業は製品や開発力は優れていたがマーケティング力に乏しく、現在では多くの企業がBAEシステムズ、サーブ、ツァイス、ラインメタルなどといった欧州企業の傘下に入ったり、アラブ産油国とのジョイントベンチャーなどで生き残りをかけている。

今回は車輛を中心とした機動デモの様相を中心とし、次回後編では主として展示物を中心として紹介し、後編では展示物を中心としたレポートをお送りする。



ハイブリッド駆動の開発は国営兵器会社であるアームスコとドイツのMM社 (現在は米L3社傘下) によって今世紀初頭から行なわれている。エンジンはMTU社の480kwの水冷ディーゼル、モーターは185kw。蓄電池は出力140kwのニッケル水素電池を採用している。



煙幕を展開中のオリジナルのロイカット。1980年代後半に実用化された偵察用8輪装甲車である。戦闘重量26tで、前面の装甲は23mm機関砲弾の直撃に耐えられる。当初は茶褐色の塗装だったが、現在は迷彩が施されている。

■NEW EAGLEコミュニケーションズ社 骨伝導ヘッドセット

【初期・骨伝導ヘッドセットモデル】

NEW EAGLEコミュニケーションズ社は1989年に創設され、'90年代に活躍した特殊部隊や法執行機関関係に使われてきた。初期モデルのヘッドアームや骨伝導ユニットがこれだ。現在のようない体型金属製アームではなく骨伝導をしっかりと伝えるための工夫がヘッドアームに取り入れられている。ブームマイクを用いずマイクとスピーカーをひとつに取付けたユニットとなっており、しっかりと押し付けた状態でなければマイクの感度が落ちるものと思われる。通常のブームマイクモデルも存在する。



板バネの作用で頬に一定の圧力でユニットが当たってくれる。

専用PTTボックス。ラジオ接続端子が'90年代初期のモトローラMX300系なのが時代を感じる。

ヘッドセットには珍しいチンストラップタイプ（恐らくマリタイム仕様）だ。



ヘッドセット全体像。



初期型・骨伝導ユニット。



ヘッドアームを外した状態。

【中期・骨伝導ヘッドセットモデル】

前モデルにブームマイクが追加され一体型アームバンドに変更されたモデル。ユニットは骨伝導スピーカーのみとなり一体型アームバンドで充分となったと思われる。現用モデルの基礎となるデザインだ。



①ユニット部分はホコリや汗の付着を防止するカバーが付く。
②カバーを開いたところ。③ヘッドセット全体像。

The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】 第97回 最新ミリタリー骨伝導ヘッドセット アトランテック・シグナル社

●解説:松原隆(高知ボンバズ) ●撮影:TARO / 山崎 学 ●モデル:植田康弘 / 松原健太
●協力ショップ:LAZY CAT (<http://lazycat.jp/>) / Gamis (<http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/>) / TRI.S(旧・特小工房) (<http://m80fmj.web.fc2.com/>)

01 骨伝導ヘッドセット

イヤホン型やヘッドフォン型スピーカーから出た音を鼓膜に直接振動させて音を伝えるのに対し、骨伝導ヘッドセットは頬骨に振動板を接触させ、骨を通じて鼓膜を振動させて音を伝える仕組み。射撃用のイヤマフ等で耳の穴を塞いでいても無線機の音声が伝わり、ある程度の外部ノイズがあっても音声がクリアに聞こえる利点がある。

今回は1989年創設のNEW EAGLEコミュニケーションズ社のヘッドセット、そしてその後継会社アトランテック・シグナル社最新のヘッドセットを今回は紹介する。1996年制作米国映画「エ

グセクティブ・デジジョン”最終決断”でスティーブ・セガール扮する陸軍特殊部隊が骨伝導ヘッドセットをプロップ装備として登場させ、実際にもSEALS隊員やSWAT隊員が同社のタクティカル骨伝導ヘッドセットを使用している。

